

# 日本精神衛生学会主催 2021年度 第2回研修会 オンライン開催のお知らせ

## ファンクショナルタッチと子育ての感性 ～子どもの多様な心を理解するために～

講師：麻生典子先生（神奈川大学人間科学部准教授）

福島里美先生（日本女子大学人間社会学部講師）

今年度の日本精神衛生学会の研修会は、学会の年次大会と連動させて計画しました。

第2回研修会は、日本精神衛生学会第34回大会で好評でしたワークショップ『子育て支援に活かすタッチング』の講師・麻生典子先生と福島里美先生をお招きして開催します。

研修の前半はファンクショナルタッチペアレンティングの理論など基礎を学び、後半は社会的養護での実践例などから具体的に学びます。

申込みフォーム <https://forms.gle/FGRXCJAA5G9eb2VK8>

参加費を郵便振替によりお送りください

口座番号 00180-6-104211

加入者名：日本精神衛生学会



2022年2月20日(日)

13時30分～16時

ZOOMによるオンライン開催

参加費

学会員 3,000円

非学会員 3,500円

学生・院生 2,000円

募集人数 50名

申込締切り 2月14日(月)

本研修会は臨床心理士資格更新のための研修ポイントの対象ではありません。  
フォームに記された個人情報には本研修会の運営に必要な範囲以外には使用しません。  
参加申し込みが完了した方に、オンライン・ミーティングの情報をお送りします。

161-0033 東京都新宿区下落合1-3-16 ジョリーメゾンヌベル下落合205号

日本精神衛生学会 研修担当：福島眞澄・加藤 純 [jkato@luther.ac.jp](mailto:jkato@luther.ac.jp)

## 講師からのメッセージ

親子間のタッチには、私たちが想像する以上に深遠でかつ多様な役割があります。

赤ちゃんの生存と成長発達のためには、養育者のタッチが不可欠であることは言うまでもありません。しかしながら、単純に長時間、養育者が子どもをタッチすればよいわけではありません。重要なのは、養育者の身体が子どもの身体に接触することではなく、子どもの心に寄り添いながら、子どもの身体に接触することなのです。こうした幼少期の親子の身体接触の体験は、子どもの心の中にタッチに関するバイオグラフィーを形作ります。

子どもの心のサインをキャッチし、心に寄り添った対応をするために必要なのは、養育者の子育ての感性です。子育ての感性は生得的なものです。それがどのように発揮されるかは、個人の経験によって異なるといわれています。

今回の研修は、タッチと子育ての感性を中心に講義をしながら、子どもの身体を通じて発信される多様な心を理解する重要性を学んでいきます。

本研修会は、2部構成になっています。

第1部は、従来の親子間の身体接触研究を概観しながら、親と子のタッチと子どもの社会情動発達との関連に関して学びを深めていきます。ファンクショナルタッチペアレンティング（FTP）の理論と実践的試みを紹介します。ファンクショナルタッチが養育者の子育ての感性を高め、親子の敏感な身体的交流が親子の間主観性を作り出すモデルを提案します。

第2部は、社会的養護の事例をいくつか織り交ぜながら、実親子ならびに里親子の関係づくりに貢献する、子育ての感性や身体的交流の役割を実践的に理解していきます。よくある子どもの行動や対応困難な事例を通して、子どもの身体や行動を通じて発信される心のサインを知り、子どもの多様な心を深く理解することを学んでいきます。

最後は、質疑応答の時間となっております。

オンラインで、生の情報がどれだけフロアの皆様に届けられるか心配ですが、精一杯、務めさせていただきますと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

麻生典子・福島里美

### ~~~~~ 研修内容（予定） ~~~~~

#### 第1部 講義（60分）

1. タッチの役割
2. タッチと社会情動発達
3. タッチと子育ての感性
4. 身体的交流と間主観性
5. ファンクショナルタッチペアレンティングの実践

休憩（10分）

#### 第2部 実践事例（60分）

社会的養護における遊びを通じた里親子関係の形成

質疑応答（20分）